

# ☆ 釧路市 2023（令和5）年度 市政懇談会

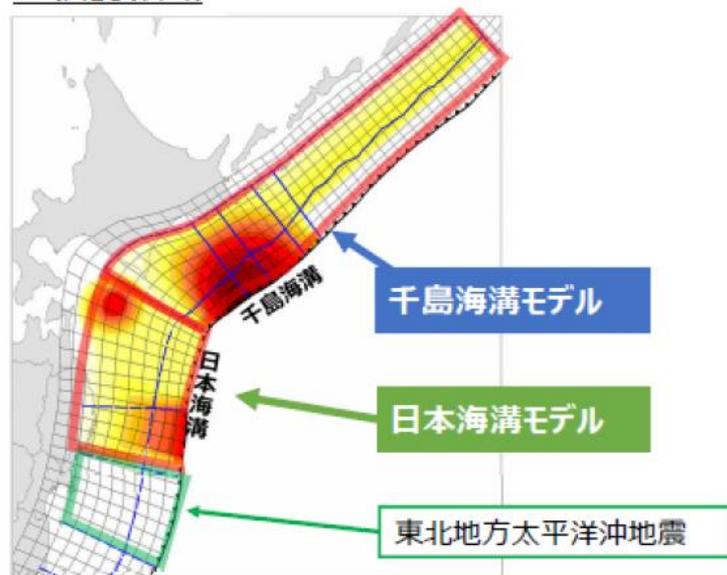


# 1. 釧路市の防災の取り組みについて

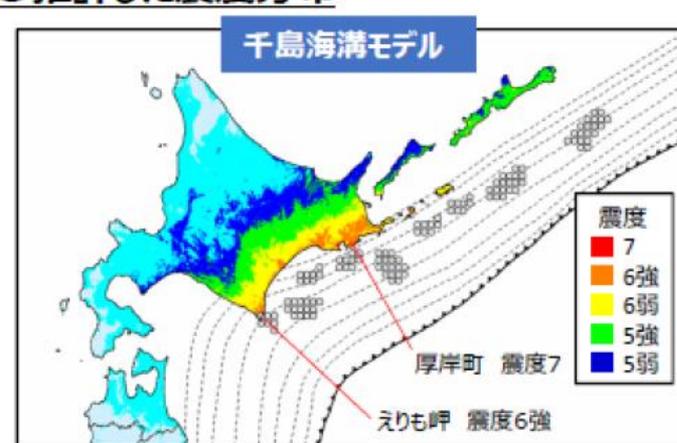
# 日本海溝・千島海溝沿いにおける最大クラスの地震について

令和2年4月に日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会（内閣府）が公表

○検討領域



○推計した震度分布



- 津波堆積物などのデータを用いて津波断層モデルを推定
- 津波断層モデルの検討で得られた震源域において、過去の地震や地震活動の状況を参考に強い揺れの発生源を配置し、震度分布を計算

# 市が進める避難対策について

## (国・道の動き)

- R4.3.18 北海道による「津波災害警戒区域指定」 →基準水位が公表
- R4.9.30 国による「特別強化地域指定」  
→特措法に基づく避難施設整備等への補助率嵩上げ

## (国の目標)

日本海溝・千島海溝  
地震防災対策推進基本計画  
(R04.09.30)

- 10年間で達成すべき減災目標を設定
  - ・想定される死者数を、今後10年間で概ね8割減少

## (津波一時避難場所の整備状況)

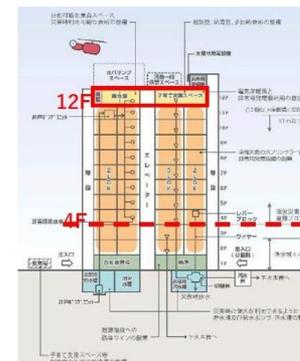
H20年 39施設 (約3万4千人収容) → R4年 153施設 (約15万1千人収容)



▲釧路市防災庁舎

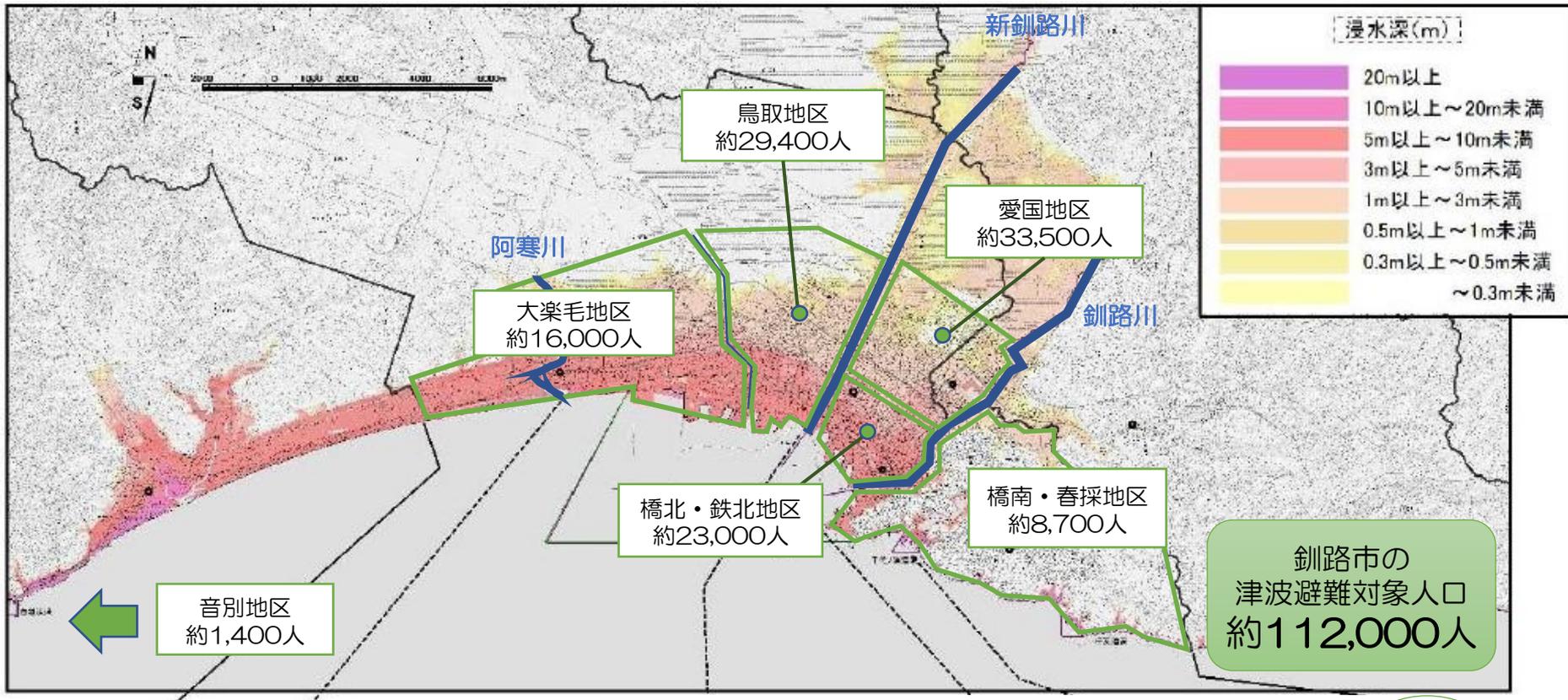


▲大楽毛避難階段



▲であえーる幸  
団地(道住)

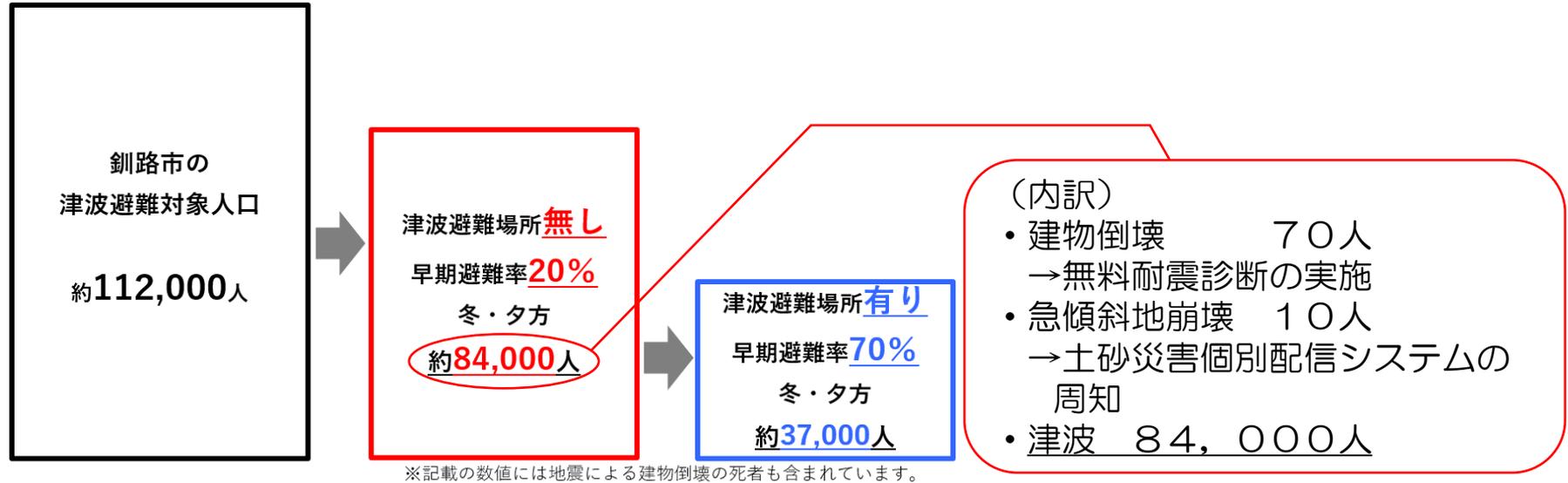
# 避難することの重要性について



▲釧路市（釧路地区）における浸水エリア（R3.7.19 北海道公表）

# 避難することの重要性について

○北海道が発表した巨大地震による人的被害（死者数）※令和4年7月28日公表



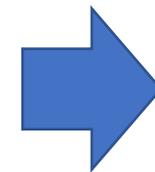
○釧路市の対策

【早期】

➤津波の一時避難場所の確保

【今後10年間】

➤早期避難率を上げていく取組



津波一時避難場所の確保  
と早期避難で

**人的被害は激減**

# 災害の時間軸における対応



## 発災前

- ハザードマップの作成
- 避難場所の確保
- 総合防災訓練 など

発災

## 発災時

- 避難場所への避難
- 非常用持ち出し品

## 復興・復旧

- 避難所の運営
- インフラの復旧作業
- 物資の供給 など



0時間

48時間



## 2. 市立釧路総合病院の 新棟建設事業等の進捗について

# 釧路・根室圏の高度医療の中核としての役割

北海道の三次医療圏の高度急性期医療を担う

## 『地方センター病院』 『救命救急センター』

### 道北三次医療圏域

	地方センター病院	救命救急センター
名寄市立総合病院	●	●

【救命救急センターのみ】

旭川赤十字病院 ・ 旭川医科大学病院

### 道央三次医療圏域

【救命救急センターのみ】

手稲溪仁会病院 ・ 札幌医科大学病院 ・ 市立札幌病院  
北海道医療センター ・ 砂川市立病院

### 道南三次医療圏域

	地方センター病院	救命救急センター
市立函館病院	●	●

### オホーツク三次医療圏域

	地方センター病院	救命救急センター
北見赤十字病院	●	●

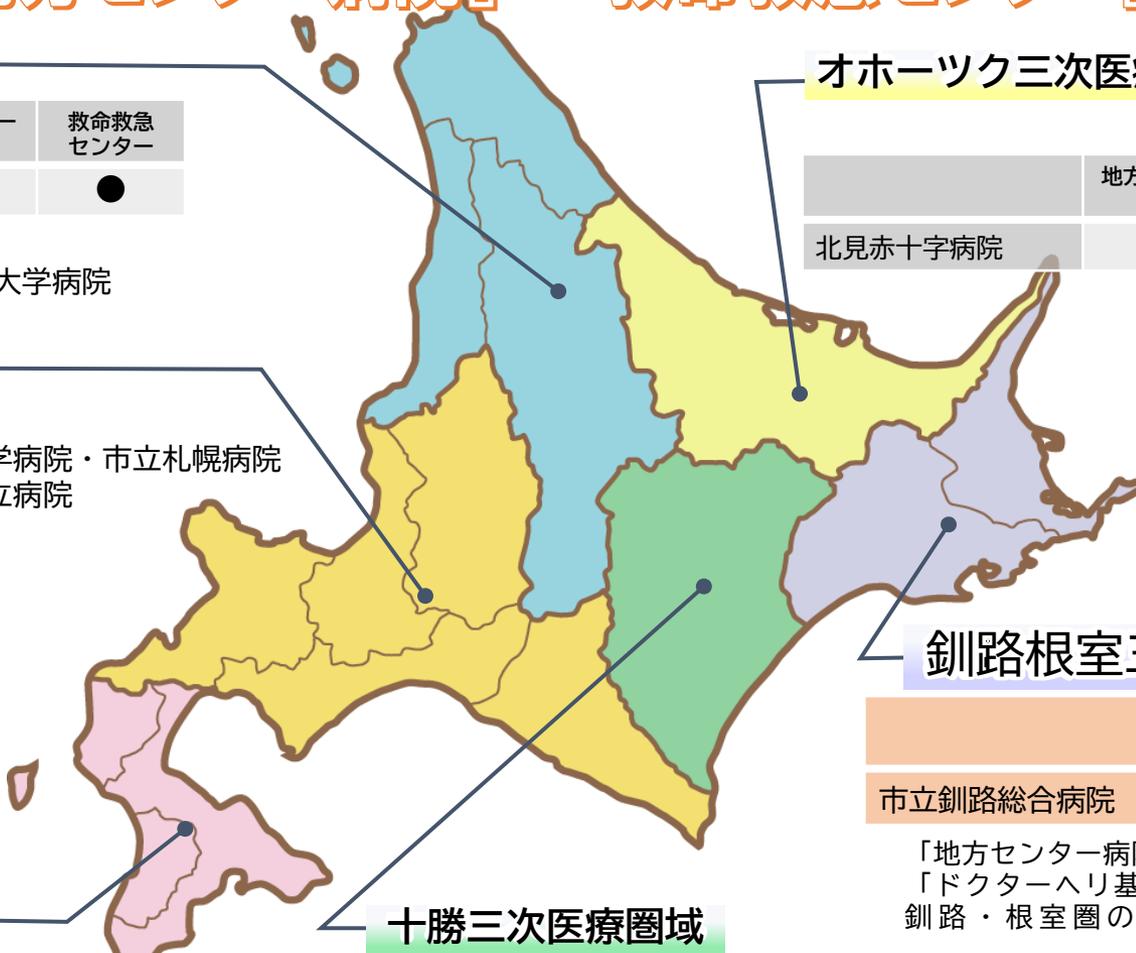
### 釧路根室三次医療圏域

	地方センター病院	救命救急センター
市立釧路総合病院	●	●

「地方センター病院」「救命救急センター」  
「ドクターヘリ基地病院」の機能を有する  
釧路・根室圏の高度急性期医療の拠点

### 十勝三次医療圏域

	地方センター病院	救命救急センター
帯広厚生病院	●	●



# 高度急性期医療の充実

本来、療養環境や専門性の違いから、区別することが望ましい、集中治療室について、  
「機能を分化」による充実を図る

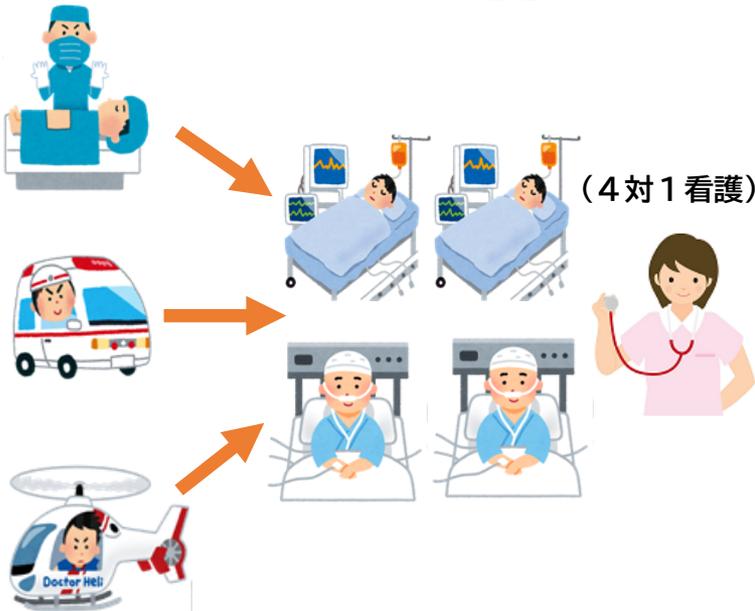
現在

ICU 12床

重症患者

混在

救急患者



新棟建設後

ICU 12床

重症患者 専用

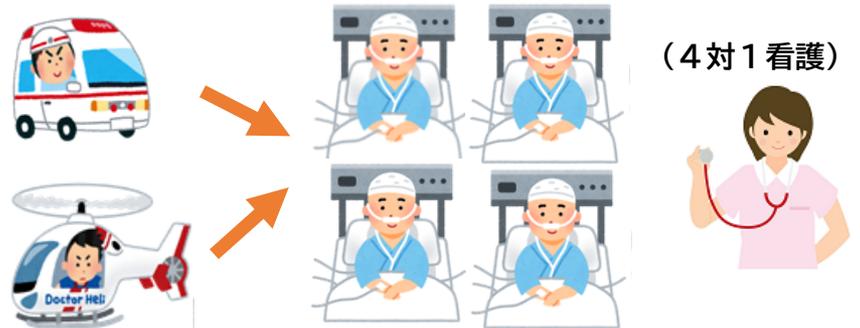
(2対1看護)



救命救急病棟 16床

救急患者 専用

(4対1看護)



# 入院病棟個室率の向上

入院の病室『個室率大幅増』による機能充実

## 医療の質

- ・症状が重く安静が必要、常時観察が必要な場合など
  - ・感染症リスクが高い方、免疫力が落ちた状態など
- 個室での療養が有効

## 患者サービス

- ・プライバシーを重視し、安らいだ空間で治療に専念できる。

## 病院経営

- ・男性部屋、女性部屋に関わらず入院が可能となり、病床稼働率が向上。

### 現在

1日入院患者数 = 461人  
総病床数 599床  
稼働率 77%

〔稼働率は、コロナ前の令和元年度実績による〕

一般入院病棟 404床

個室数 = 17室  
個室率 = 4%

周産期母子病棟 49床

個室数 = 11室  
個室率 = 22%

### 新棟建設後

1日入院患者数 = 493 <sup>32人増</sup>  
総病床数 535床  
稼働率 93%

〔稼働率は、個室率向上による効果を踏まえた計画値〕

一般入院病棟 388床

個室数 = 132室 <sup>115室増</sup>  
個室率 = 34% <sup>30%UP</sup>

周産期母子病棟 25床

個室数 = 25室 <sup>78%UP</sup>  
個室率 = 100% <sup>14室増</sup>

# アフターコロナの医療に対応した機能整備

釧路二次医療圏域の

「**第二種感染症指定医療機関**」として感染患者入院受入機能の充実

新興感染症等の感染拡大時には、段階的に感染患者用病床を増床

フェイズ1 (通常時)  
感染症病床4床

フェイズ2 (感染拡大初期)  
感染症病床13床

フェイズ3 (感染拡大期)  
感染症病床29床

## 災害機能の充実

釧路二次医療圏域の「**地域災害拠点病院**」としてライフラインの確保

「災害拠点病院」の要件

大規模災害時における、3日分程度の電気、燃料等のエネルギーと水の確保

3日分を確保

# 建築計画



## ◆ 新棟規模

延床面積	約40,000㎡
建物規模	地上11階、地下1階

# 事業スケジュール

2027年春新棟開院予定

(令和9年)

2029年(令和11年)11月頃全工事完了予定



2023年度  
[R5年度]

2024年度  
[R6年度]

2025年度  
[R7年度]

2026年度  
[R8年度]

2027年度  
[R9年度]

2028年度  
[R10年度]

2029年度  
[R11年度]

実施設計

新棟建設工事

新棟開院

駐車場完成 (全工事完了)

既存棟改修・解体・外構整備

### 3. 都心部のまちづくりについて

# 賑わいを生み出すために

## 都心部 (北大通周辺)

釧路駅  
中央図書館  
こども遊学館  
耐震旅客船ターミナル  
末広繁華街  
釧路川リバーサイド  
など

市民や観光客が集まる施設  
**集中**している

**+** (プラス)

## 駅周辺

人が集まり、賑わいを  
創出するような

- ・イベントの開催
- ・公共公益施設の整備

ウォーカブル化により各施設の回遊性を高める！



## 市の考え方

駅と北大通周辺のエリア一帯に、歩行者の行きかう空間を構築することで、人出を作り出し、賑わいを生み出す。

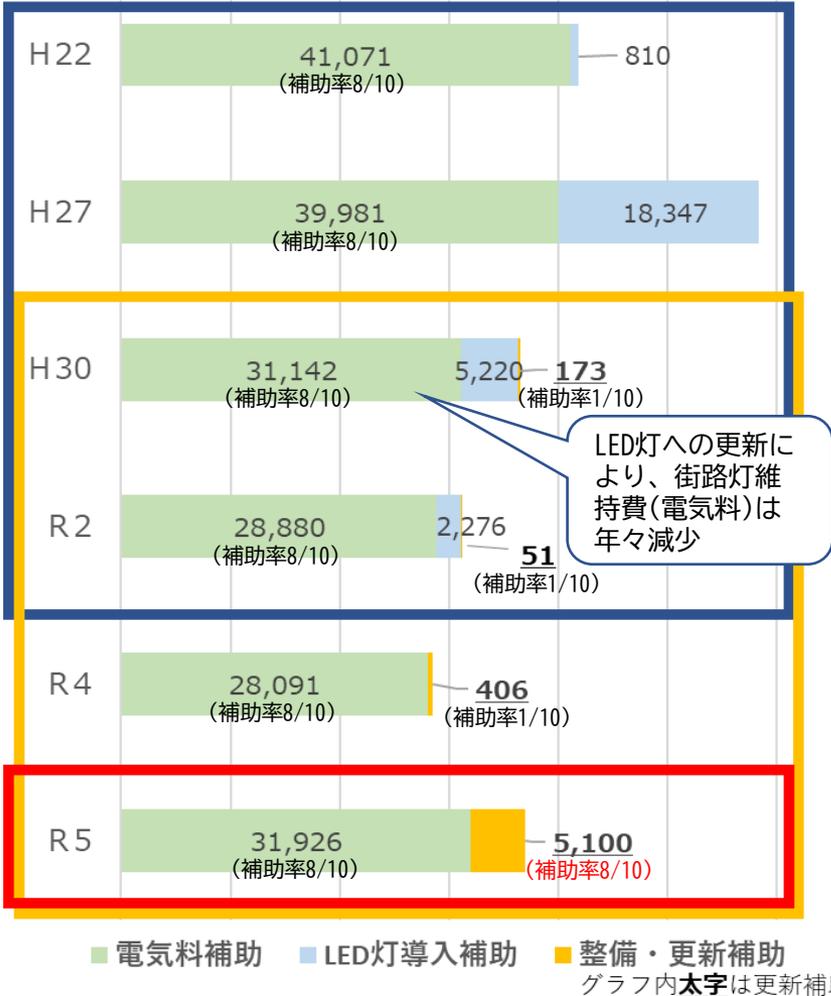
## 4. 町内会への取り組みについて

- (1) 街路灯整備費補助金の改定について
- (2) 地区会館にかかる指定管理費の増額について

# 街路灯補助金総計額推移

(千円)

0 10,000 20,000 30,000 40,000 50,000 60,000



- LED灯導入費補助 (平成22年度～令和2年度まで)
- 街路灯整備・更新補助 (平成30年度～)
- 街路灯整備・更新補助拡充 (令和5年度予算)

# 地区会館にかかる指定管理費の増額について

## 積算内容を見直しました

### ① 光熱水費相当分を増額

光熱水費の積算根拠の見直し

- ・大規模会館 1館あたり 26,000円増額
- ・標準会館 1館あたり 44,000円増額
- ・小規模会館 1館あたり 52,400円増額

### ② 修繕費相当分を加算

1館あたり 30,000円を加算

### ③ 小規模会館の管理人手当相当分を増額

小規模会館 1館あたり120,000円増額

	～R4まで～	～R5から～
大規模会館	431,000円/年	487,000円/年
標準会館	384,000円/年	458,000円/年
小規模会館	235,000円/年	437,000円/年

ご清聴ありがとうございました

